

■ 近年の降雨での確認

今回、計画策定後の代表的な2洪水、平成7年7月12日降雨（日雨量114mm：飯綱観測所）及び平成16年10月20日（日雨量112.0mm：飯綱観測所）で飽和雨量（Rsa）を確認した。

平成7年7月12日降雨では、飽和雨量（Rsa）は50mm程度となった。

平成16年10月20日降雨では、飽和雨量（Rsa）は105mm程度となった。

平成7年7月12日降雨は、11日に76mm、8日に58mmの降雨があり、流域が湿潤状態であったと推定される。一方、平成16年10月20日は洪水期の末期であり、その前10日間はまとまった降雨がないことにくわえ、ダラダラ雨でピーク流量も小さい雨のため、飽和雨量（Rsa）が大きくなったと推定される。

飽和雨量（Rsa）は流域の湿潤状態を表す定数であり、洪水前の前期雨量の多寡により飽和雨量に差が生じるため、計画に用いる飽和雨量（Rsa）は、前期降雨等流域の状況を考慮する必要がある。（参考資料4-5）

なお、中小河川においては、値のバラツキが生じやすく、平均値で求めるのはやむを得ないとの専門家の見解も確認した。

上記から、浅川ダム計画で用いている飽和雨量（Rsa）の値50mmは妥当と判断できる。

(参考) 表 飽和雨量検証近年2洪水の飽和雨量と計画飽和雨量等の比較 (mm)

	S54.8	S56.7	S56.8	S60.7	4洪水 平均	H7.7	H16.10	6洪水 平均
Rsa	40	25	90	25	45 ≒ 50	50	105	55.8
総雨量	79.0 (長野)	93.0 (長野)	117.0 (長野)	59.0 (長野)	-	173.0 (飯綱)	130.5 (飯綱)	-

なお、この平成7年7月12日降雨、平成16年10月20日降雨を計画雨量（130mm/日）まで引き伸ばして流出解析を行うと、ピーク流量は、平成7年7月12日降雨では293m³/s、平成16年10月20日降雨では252m³/sとなる。（参考資料4-5）